

高知大学 moodle2018利用状況レポート

- 高畑 貴志 (大学教育創造センター)
- 立川 明 (大学教育創造センター/地域協働学部)
- 藤田真理子 (学務課知プラ e 担当)
- 三好 康夫 (理工学部/大学教育創造センター/学術情報基盤図書館)
- 中城 真弓 (学務課知プラ e 担当)
- 南 幸子 (学務課知プラ e 担当)

高知大学は、『四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施(知プラ e 事業)』に参加しており、LMS(Learning Management System)として moodle を導入している。本レポートは、2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)の moodle 利用状況を報告するものである。

1. コースの利用状況

表1に2018年度の moodle 上で公開されたコースについて報告する。

表 1. 学部等別の科目の moodle 利用率・登録ユーザの利用率

2018年度	moodle 準備科目数 (A)	moodle 利用科目数 (B)	moodle 利用率 (B/A)	利用科目への 登録ユーザ数 (C)	科目にアクセス したユーザ数 (D)	登録ユーザ の利用率 (D/C)
共通教育科目	560 (554)	39 (25)	7.0% (4.5%)	2,937 (1,778)	2,079 (1,394)	70.8% (78.4%)
人文社会科学部/ 人文学部専門科目	554 (551)	10 (12)	1.8% (2.2%)	118 (325)	91 (267)	77.1% (82.2%)
教育学部専門科目	1,154 (1,191)	4 (4)	0.3% (0.3%)	189 (211)	50 (145)	26.5% (68.7%)
理工学部専門科目/ 理学部専門科目	388 (434)	37 (23)	9.5% (5.3%)	2,159 (831)	1,801 (693)	83.4% (83.4%)
医学部専門科目	311 (283)	23 (16)	7.4% (5.7%)	1,917 (1,466)	1,687 (1,239)	88.0% (84.5%)
農林海洋科学部専門科目 /農学部専門科目	560 (540)	30 (15)	5.4% (2.8%)	1,452 (905)	1,326 (714)	91.3% (78.9%)
地域協働学部専門科目	84 (100)	0 0	0.0% (0.0%)	0 (0)	0 (0)	--- (---)
土佐さきがけプログラム 専門科目	101 (95)	20 (17)	19.8% (17.9%)	301 (328)	140 (161)	46.5% (49.1%)
全学開設科目	7 (7)	0 0	0.0% (0.0%)	0 (0)	0 (0)	--- (---)

人文社会科学専攻 (修士課程 大学院科目)	13 (0)	0 (0)	0.0% (---)	0 (0)	0 (0)	---
教育学専攻 (修士課程 大学院科目)	383 (378)	0 (0)	0.0% (0.0%)	0 (0)	0 (0)	---
理学専攻 (修士課程 大学院科目)	599 (466)	7 (3)	1.2% (0.6%)	40 (13)	37 (11)	92.5% (84.6%)
医科学専攻 (修士課程 大学院科目)	151 (106)	1 (0)	0.7% (0.0%)	6 (0)	2 (0)	33.3% (---)
看護学専攻 (修士課程 大学院科目)	82 (74)	0 (0)	0.0% (0.0%)	0 (0)	0 (0)	---
農学専攻 (修士課程 大学院科目)	909 (959)	0 (0)	0.0% (0.0%)	0 (0)	0 (0)	---
土佐さきがけプログラム (修士課程 大学院科目)	24 (0)	0 (0)	0.0% (---)	0 (0)	0 (0)	---
教職実践高度化専攻 ※ (修士課程 大学院科目)	75 (-)	7 (-)	9.3% (---)	80 (-)	53 (-)	66.3% (---)
応用自然科学専攻 (博士課程 大学院科目)	86 (206)	0 (0)	0.0% (0.0%)	0 (0)	0 (0)	---
医学専攻 (博士課程 大学院科目)	368 (336)	2 (1)	0.5% (0.3%)	59 (124)	41 (119)	69.5% (96.0%)
黒潮圏総合科学専攻 (博士課程 大学院科目)	69 (60)	0 (0)	0.0% (0.0%)	0 (0)	0 (0)	---
その他 (修士課程 大学院科目)	24 (23)	0 (0)	0.0% (0.0%)	0 (0)	0 (0)	---
その他 (博士課程 大学院科目)	0 (0)	0 (0)	---	0 (0)	0 (0)	---
その他	6 (13)	5 (4)	83.3% (30.8%)	10 (138)	9 (125)	90.0% (90.6%)
オープンコンテンツ	2 (4)	2 (4)	100.0% (100.0%)	0 (8)	0 (6)	---
講習・研修用	14 (15)	13 (15)	92.9% (100.0%)	29,933 (30,304)	2,862 (1,555)	9.6% (5.3%)
通常科目合計※※	6,502 (6,363)	180 (116)	2.8% (1.8%)	9,258 (5,981)	7,307 (4,743)	78.9% (79.3%)

※ () 内の数は2017年度実績

(A) moodle 準備科目数は、高知大学で開講されている全授業科目(シラバスに掲載された科目)及び、「その他」・「オープンコンテンツ」・「講習・研修用」の科目(シラバス掲載外の科目)を加えた数である。本学では moodle を利用したいと思う教員がいつでも利用を開始できるよう、履修登録期間に合わせ、学期ごとの履修学生データ・授業科目データ・授業担当教員データを moodle 上に登録している。なお、各コースに登録されたユーザが当該コースを利用するには、コースを公開する必要がある。

(B) moodle 利用科目数(公開コース数)は、実際に公

開されたコース数である。

(C) 利用科目への登録ユーザ数は、(B)に登録されたユーザ数である。この数は教職員・学生を区別していない。

(D) 科目にアクセスしたユーザ数は、moodle にログイン後、各リソースに対してなんらかの操作を行ったことのあるユーザ数を示している。

※ 教職実践高度化専攻は、2018年度に開設されたため、2017年度のデータはない。

※※通常科目合計は、その他、オープンコンテンツ、講習・研修のカテゴリーを除いて集計している。

結果

科目の moodle 利用率(全科目中の公開されたコースの割合)は2.8%と少ないものの、昨年度から約50%増加している。共通教育科目、医学部、理工学部、農林海洋科学部の専門科目では、いずれも約2倍に増加し、徐々に moodle の利用が広がっている様子が見て取れる。また、2018年度に開設された教職実践高度化専攻で、開講科目数の約1割にあたる7科目で利用されている。

moodle 利用科目数の増加に合わせて、利用科目への登録ユーザ数・科目にアクセスしたユーザ共に、約54%増加しており、登録ユーザの利用率(公開されたコースに登録されたユーザが実際にコースにアクセス

した割合)は、全体としては昨年度とほぼ変化なく79%であった。しかし、区分ごとに見ると利用率の変化は大きく異なる。利用科目への登録ユーザ数が多い4つの区分で見ると、共通教育は約8%減少、理工学部は変化なし、医学部、農林海洋科学部では増加しており、特に農林海洋科学部で顕著な増加がみられた。共通教育や、顕著に利用率が減少した教育学部では、一部の科目で利用率が50%未満となっており、全体の利用率の低下につながっているものと思われる。

2. アクセス状況

表2に2018年度のユーザ種類別の利用率・ログイン回数・アクセス数について報告する。

表2. 2018年度ユーザ種類別の利用率・ログイン回数・アクセス数

2018年度		合計	本学学生	本学教職員	連携大学ユーザ
ユーザ数(E)		9,281 (9,293)	5,586 (5,540)	3,695 (3,753)	263 (389)
ログインしたユーザ数(F)		4,617 (3,852)	3,040 (2,458)	1,329 (1,017)	248 (377)
利用率(F/E)		49.7% (41.4%)	54.4% (44.3%)	35.9% (27.0%)	94.3% (96.9%)
延べログイン数(G)	1学期	53,532 (42,012)	46,075 (28,002)	4,079 (3,405)	3,378 (10,605)
	2学期	48,444 (30,305)	40,851 (26,049)	5,871 (3,894)	1,722 (362)
延べアクセス数(H)	1学期	1,005,199 (896,476)	735,676 (559,841)	187,105 (138,961)	82,418 (197,674)
	2学期	720,581 (464,669)	535,784 (358,185)	150,929 (99,620)	33,868 (6,864)
ログインあたりの アクセス数(H/G)	1学期	18.8 (21.3)	16.0 (20.0)	45.9 (40.8)	24.4 (18.6)
	2学期	14.9 (15.3)	13.1 (13.8)	25.7 (25.6)	19.7 (19.0)

※ () 内の数は2017年度実績

(E) ユーザ数は、以下の3種に分けた。

本学学生ユーザ……本学「学生統計要覧」の学生数（各年度5月1日時点）である。

本学教職員ユーザ……本学学術情報課が有する有効ユーザ数（各年度5月1日時点）である。

連携大学ユーザ……本学が知プラ e 事業として提供している共同実施科目の履修生のうち、moodle に登録されている連携大学のユーザ数である。

(F) ログインしたユーザ数は、全学認証 ID を使ってログインしたことがあるユーザの数である。

(G) 延べログイン数は、全学認証 ID を使ってログインする度にカウントされる数である。複数回ログインした場合は、それぞれを数えた。

(H) 延べアクセス数は、moodle ログイン後、各リソースに対して何らかの操作を行った数である。ページを閲覧する、動画を開く、小テストを受験するなどがこれにあたる。ログイン回数、アクセス数は、第1学期・第2学期それぞれの数を数えた。

結果

登録されている全ユーザ数に対し、実際にログインしたことがあるユーザは50%に迫った。この利用率増加の大きな要因として、学生においては、知プラ e 提供科目数の増加が挙げられる。教職員においては、複数の知プラ e 提供科目がFD・SDウィークの公開科目に登録されたことが、利用率増加につながったと考えられる。連携大学のユーザを見ると、利用率は知プラ e 科目受講のためなので高い一方、ユーザ数は昨年度よりも減少している。これは、2017年度に、受講者数の多かった知プラ e 科目について、2018年度に本学以外の受講者数に制限を設けたことが影響している。

ログインあたりのアクセス数は、ログイン後にどの程度の活動を行ったかの目安である。昨年度に比べて、1、2学期ともに減少している。一方、ログイン

数とアクセス数は昨年度よりも増加しており、ログイン数の増加よりもアクセス数の増加が大きい。また、ユーザ1人当たりのアクセス数を計算すると、連携大学ユーザ以外は昨年度よりも増加している。

なお、表2に挙げたユーザ種別の利用率・ログイン回数・アクセス数の集計においては、今年度より、ユーザ数から卒業や退職等をしているユーザを除いたため、昨年度までの同種の集計とは大きく異なる結果となっている。

考察

科目のmoodle利用率（全科目中の公開されたコースの割合）は全科目の3%弱と依然として少ないものの、昨年度と比較して1.5倍になったことから、moodleの普及が広がっていることが確認できる。その一つの要因としては、知プラ e 科目が、2017年度の4科目から11科目に拡充されたことが挙げられる。また、科目のmoodle利用率が19.8%の土佐さきがけプログラム、9.5%の理工学部、7.4%の医学部など、授業を展開する一手段としてmoodleの利用が根付き始めていると考えられる。また、2018年度に開設された教職実践高度化専攻では、5科目の実習でmoodleが活用され、実習中は大学にいることの少ない学生の指導の手段となっている。教職実践高度化専攻のように、毎日キャンパスに来ることの難しい学生の多い部局では、moodleが貢献できる場面は少なくないと考える。

moodleの利用が拡大している背景には、いくつかの要因が考えられる。まず、ICT技術の高度化・普遍化により、学生・教員の双方にICTを活用した授業の魅力が増し、教員がmoodleを利用する際の抵抗感が薄れていると推察される。本学の提供する知プラ e 科目は、2017年度の4科目から2018年度には11科目と拡大し、本学のフル e-ラーニング科目拡大の原動力となっている。2018年度には、セルフアセスメント・パフォーマンス評価（学生と教員によるルーブリック評価）、リフレクション面談（教員による学生面談）のプラットフォームとして、e-ポートフォリオの活用が広がったことも、教員がmoodleによるICT活用授業を

取り入れるきっかけになりうる。また、例年開催している「moodle 講習会」は moodle 普及に対して一定の役割を果たしているであろう。さらに、FD・SD ウィークでの知プラ e 科目の公開は、moodle のショーケース的な役割を果たしている可能性も否定できない。これらの要因が重なり、moodle 等の ICT 活用がある程度普及することで、今後は、教員間の情報共有により moodle の利点がより広く理解され、さらに広範囲に活用されることが期待される。

ログインあたりのアクセス数は若干減少しているが、ログイン数、アクセス数ともに増加しているため、「たまった課題を一度にやっつける」スタイルから、「定期的に履修を続けていく」というより好ましいスタイルに移行していると考えるのが、適切であろう。

なお、本年度に開講された知プラ e 科目61科目のうち50科目が、他大学の moodle で開講されている。他大学の moodle を利用して知プラ e 科目を受講した高知大生の数は延べ928名にのぼっており、高知大生の実際の moodle 利用状況はさらに活発なものになっている。